

# 「民間主導で宇宙開発」

## ASTIC秋葉理事長が現状分析

【大樹】NPO法人北海道宇宙科学技術創成センター(ASTIC)、札幌市の新しい流れは北海道から」が24日、町経二の秋葉理事長は、宇宙開発の現状を分析し、民間主導による宇宙開発の国の宇宙開発予算が減少

する中、最近では大学や企業など民間が宇宙に目を向けるようになった」と現状を分析、町多目的航空公園についても宇宙産業の拠点として「観光を浴びる時期に来ている」と述べた。

小型ジェット機が飛び立つ映像を上映した。最後に永田晴紀北大大学院助教が、町で2002年から実験を繰り返しているハイブリッドロケットについて講演。管理コストの掛かる火薬を使わず、プラスチックを燃料とする世界最小・最安価の液体酸素ロケットエンジンなどについて解説した。(松村智裕)



秋葉理事長による宇宙開発に関する解説

続いて、伊藤一HASTIC専務理事が地上から約100キロ上空の宇宙空間で遊覧飛行を業しむサフォービタル有人飛行について解説し、米ロケットプレーン社が作製したコンピュータグラフィックスで、十勝から